

デジタルシティズンシップ教育とは？

「デジタルシティズンシップ」とは、インターネットやデジタル技術を通じて、社会とつながり、責任ある行動をとりながら積極的に参加する力のことです。



情報モラル教育とデジタルシティズンシップ教育

これまでの「情報モラル教育」では、インターネットの危険性やマナーについて学び、トラブルを未然に防ぐための知識やルールの習得が重視されてきました。主に「危険を回避し、安全に使う力」を育てることが目的です。

一方で「デジタルシティズンシップ教育」では、こうした基礎に加えて、インターネットを通じて社会とつながり、責任ある行動をとる力を育てることを目指します。正しく使うだけでなく、より良く活用する視点を持ち、他者との関わりの中で思いやりや協力の姿勢を育みます。子どもたちが安心して主体的にデジタル社会に参加できるようになることが、大きな目標となります。

デジタルシティズンシップで育てたい力

① 情報を見極める力

インターネットには正確な情報だけでなく、誤情報や意図的に操作された情報があります。情報の信頼性を判断し、必要に応じて様々な視点を意識して調べ直す力が求められます。

② 協働する力

インターネット上では、異なる立場の人と意見を交わしながら協力する場面があります。価値観の違いを尊重し、共通の目的に向かって協力する姿勢が大切です。

③ 発信する力

自分の考えや気持ちを適切な方法で発信する力が大切です。インターネット上で何かを発信する際には、言葉の選び方や相手への配慮、発信の影響などを考える力が求められます。

④ 参加意識

インターネット上の出来事を「自分には関係ない」と捉えるのではなく、社会の一員として積極的に関わっていくことが求められます。その際には、ルールやマナーを守り、他者への配慮を忘れずに行動することが大切です。

指導の要点

デジタルシティズンシップ教育では、これまでの情報モラル教育で重視されてきた「自分を守る力」に加えて、社会とつながりながら前向きに関わる力を育てることが目標となります。そのためには、「情報を見極める」「協力する」「発信する」「参加する」といった力を育てることが大切です。

授業や学校生活の中で、子どもたちが自分で考え、話し合いながら学べるような場を作ってあげることがポイントとなります。

